

★関東アコ20周年記念企画コーナー★

“Music”合同演奏練習も終盤に入る・・・本番まであと1ヶ月！！

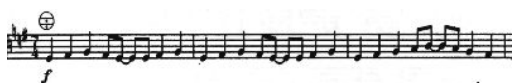
10月18日(日)「花伝舎」に柴崎和圭先生ほか36名が集まり、6回目の練習を実施しました。今回は、前半にパート練習並びにグループ練習の時間をとり、もう一度パートごとに音の確認をいたしました。

□ソロパートの音が聴こえるように！

●練習番号①のソロパートはアコーディオンⅠとエレクトーンⅠパートです。他はこのパートを聴きながら自分のパートを弾けるように控えめな音量で。

エレクトーンⅡはハーブがポンポンとはじく感じ、(粘っこく音をつなげない)これを支えているのがアコⅣとベースパートです。

●練習番号②(19小節)[ミ・ファ・ソ・ファ・ミー・ミ・ファ・ソ][ミ・ファ・ソ・ファ・ミー・ミ・ファ・ソ][ミ・ファ・ソ・ラ・シー・ラ・ソ・ファ]ここは、



“f”フォルテになっている。(図はアコⅣパートの19小節からですが、アコⅡ、Ⅲ、ピアノ、ベースも一緒です)全ての音が“f”では効果が無いので、[ミ・ファ・ソ]に向かって“f”クレッシェンドし、[ファ・ミー・ミ・ファ・ソ]に向かって“p”デクレッシェンドの繰り返しで、メリハリをつける。

“f”とは何か、“p”入との差(開き)で効果が出てくる。したがって、“f”が難しかったら“p”をもっと小さくすることで同じ効果を出してみる

□随所に出てくるベローストップ！

●練習番号③アコⅠ、エレクトーンⅠ、Ⅱ「fp」の出し方・・・左手を強く斜め下に落とす感じ、音が出たらすぐにベローストップ！下げた左手は下から支えるようにそっと戻さないと音は止まらない(このとき指は鍵盤から離さない)。すると、楽器の中にたまった空気力で残響がのこり、すぐに音がほとんど聴こえなくなる。その「p」を大事に生かして、徐々に音量をあげていきます。

□アクセントをつける

●練習番号④アコⅠ、Ⅱ、Ⅲ、エレクトーンⅠ、Ⅱ、ピアノ、ベースは図(左からアコⅠ、エレクトーンⅠ、ベース)の例のようにフォルテッシモのアクセント記号が付いています。ここは、アコーディオンを斜め下へポンと落とす感じ



です。

アコーディオンのベース部が左ひざの上に置かれていると下への力が働かないので、鍵盤が顔の下(身体を中心)になるくらいに抱えると良い。

□三連譜を見たらトライアングルを思い浮かべよう

●練習番号⑧に三連譜が出てきます。図はエレクトーンⅡの77、78小節ですが、アコⅢ



パートも同様です。ここはパパパと走り

りがちなので、“パツ、パツ、パツ”とトライアングルをイメージするといいです。

□組み合わせを思い出そう！

●練習番号⑩は覚えていますが、[アコⅠとアコⅡ]は1オクターブ違いで進行したりオクターブ違いの同じ音を同時に伸ばしたりの似た音を出す組み合わせです。[アコⅢとエレクトーンⅡ]はスイッチは違うけど全く同じことをしている組み合わせです。この組み合わせを意識してみてください。総譜を持っている方に見せてもらおうと良くわかると思います。

□ベローシェイクの要領で！

●練習番号⑭(125小節から)のアコⅠ、エレ